

目 次

発刊にあたって	頭取 岩城 長保
口 絵 (新本店全景・現役員・行旗・行歌)	
凡 例	
題 字 (岩城頭取)	

本 編

序 章 創立前史

第1節 近代的金融制度の生成と発展	3
1. 明治政府の殖産興業政策	3
太政官札の発行 新貨条例の制定 為替会社の設立	
2. 国立銀行の設立	5
国立銀行の発足 国立銀行条例の改正	
国立銀行 153 行の設立	
3. 銀行類似会社と私立銀行の設立	9
4. 近代的通貨金融制度の確立	10
不換紙幣の整理と日本銀行の設立 国立銀行の普通銀行への転換	
銀行条例の制定 貯蓄銀行の発生 特殊銀行の創立	
金本位制度の確立	
第2節 景気変動と銀行合同	21
1. 銀行集中傾向の胎動	21
明治中期の銀行破綻とその要因 明治33～34年の恐慌	
日露戦争とわが国経済 日露戦争後の反動と明治時代の終幕	
政府の銀行合同政策	

2.	大正期銀行合同の進展	25
	第1次世界大戦と経済 大戦後の反動恐慌	
	関東大震災と金融界 大正期の銀行合同	
3.	一県一行主義の推進	33
	金融恐慌の発生 金解禁と経済恐慌 金輸出再禁止と積極財政	
	戦時経済への移行 銀行法の制定と銀行合同の促進	
	一県一行主義の進展	
第3節	千葉県における銀行業の発達	49
1.	千葉県の誕生	49
	藩から県へ 産業の概要	
2.	国立銀行の盛衰	53
3.	私立銀行の発展	58
	千葉貯蓄銀行＝千葉銀行 銀行類似会社 私立銀行	
4.	経済情勢の推移と銀行の業績	67
	千葉県の発展 県内銀行の盛衰 業績の推移	
第4節	前身銀行略史	75
1.	千葉合同銀行	75
	成田銀行の創立 県都への進出 千葉合同銀行の発足	
(付)	千葉合同銀行に合併された銀行	87
	安房合同銀行 上総銀行 東金銀行	
2.	小見川農商銀行	95
	創立 営業の概況 神崎銀行を合併	
3.	第九十八銀行	101
	第九十八国立銀行の創立 普通銀行への転換 安田銀行と提携	
	店舗網の拡大 堅実経営の推進	
4.	千葉貯蓄銀行	111
	創立 営業の概況 合併気運の醸成	
5.	野田商誘銀行	114
	創立 営業の概況 合同勧奨	

千葉県内銀行一覧	118
カラー 国立銀行紙幣	

第1章 創立の前後

第1節 創立前後の諸情勢	149
1. 戦時経済体制の推移	149
2. 金融統制の強化	152
新しい日本銀行の成立 金融統制会の活動	
軍需融資指定金融機関制度の採用	
共同融資銀行と資金統合銀行	
3. 銀行合同の進展	155
4. 戦時下における千葉県経済の動向	156
第2節 千葉銀行の創立	159
1. 合併の経緯	159
政府の合併勧奨 合併手続きの進行 創立総会の開催	
2. 体制の整備	167
創立時の営業 機構の整備 営業店舗網 内規等の制定	
行章の制定	
3. 一県一行体制の確立	173
千葉貯蓄銀行の合併 野田商誘銀行の営業譲受	
県外営業店の譲渡	
第3節 戦時下の経営	178
1. 戦時下の業務推進	178
国・県の貯蓄推進 当行の預金増強 新種預金の取扱い	
資金の運用 代理業務の取扱い	
2. 事務の合理化と店舗の異動	185
事務の統一と簡素化 内国為替集中決済制度の実施	
店舗の異動 東京支店の設置	

3.	戦時非常対策	189
	非常事務処理対策 非常駅伝路線の設定	
	営業所業務の取扱い制限 戦時下の勤務態様	
4.	被災	193
	被災と営業活動 東京支店の被災	
第4節 経済復興と再建整備		196
1.	戦後経済の混乱と収束	196
	終戦とインフレーションの進行 金融非常措置の実施	
	傾斜生産と融資規制 ドッジ・ラインとインフレーションの収束	
2.	朝鮮動乱ブームと経済自立	203
	朝鮮動乱ブーム 自立経済への移行 金融制度の整備	
	一県一行主義の原則緩和と新銀行の設立	
	全国地方銀行協会の設立	
3.	戦後の千葉県経済	208
4.	金融機関の再建整備	216
5.	当行の再建整備	219
	新旧勘定 調整勘定 再建整備による増資 資産再評価	
第5節 復興期の経営		226
1.	自己資本と本部機構の充実	226
	自己資本の充実 本部機構の充実	
2.	店舗の整備と営業譲受	228
3.	業務の改善拡大	232
	業務の改善 公金業務の拡大 代理業務等の拡大	
4.	人事施策の充実	238
	人事対策 厚生対策	
第6節 復興期の業績		241
1.	預金増強運動の展開	241
	自主的預金増強運動の推進 新種預金の取扱い 褒賞	
2.	資金の運用	249

- 3. 業績の進展…………… 252
- 4. 創立10周年…………… 253

第2章 日本経済の発展と当行の経営

第1節 発展する日本経済…………… 257

- 1. 経済安定から高度成長へ…………… 257
 発展への地固め 技術革新と高度成長
- 2. 高度成長の姿…………… 261
 数量景気 神武景気 なべ底景気 岩戸景気
- 3. 金融の正常化と融資規制…………… 266
 金融政策手段の整備 金融制度調査会の発足 融資の規制

第2節 千葉県経済の発展…………… 270

- 1. 京葉工業地帯の造成…………… 270
 埋立地造成と企業の進出 京葉工業地帯造成計画
 巨額の漁業補償金 内陸工業地帯の開発
- 2. 変貌する県内産業…………… 278
 工業生産の上昇 商業の規模拡大 農漁業の近代化
- 3. 人口の急増と所得の向上…………… 288
- 4. 財政の伸長…………… 294

第3節 当行経営の刷新整備…………… 296

- 1. 経営の刷新…………… 296
 役員の変動 新しい経営方針
- 2. 経営施策の推進…………… 298
 資力の増強 融資機構の整備と管理債権の整理
 経営計画の策定 労使紛争
- 3. 機構の改革…………… 300
- 4. 店舗の整備…………… 303
- 5. 人事管理の改善…………… 305
 人事施策の推進 行員の養成 健康管理と厚生施策の推進

第4節 1,000億円への道	314
1. 預金増強	314
預金増強運動の推進 新種預金の開発	
外事機動力の強化とPR活動の活発化 褒賞	
2. 資金の運用	324
融資の改善 制度融資の実施 消費者金融の開始	
代理貸付の拡大 有価証券等の運用	
3. 業績の好転	330
4. 事務の近代化と業務の拡充	332
銀行業務の合理化推進 事務取扱基準等の制定整備	
事務の改善 事務の集中処理 事務機械化の推進	
業務の拡充	
5. 創立20周年	342

第3章 高度成長下の経営

第1節 転換期を迎えた日本経済	347
1. 経済の概況	347
景気の推移 国際化の進展 新しい福祉社会の建設	
2. 金融の効率化	356
統一経理基準の実施 合併・転換法の施行 店舗規制の緩和	
金利規制の簡素化 配当規制の緩和 預金保険の発足	
第2節 変貌する千葉県	362
1. 開発の進展	362
ニュータウンの建設 千葉工業地帯の発展 公害対策	
交通網の整備 新空港の建設 観光開発の進展	
2. 成長する千葉県経済	371
千葉県経済の進展 産業の動向 財政と金融	
カラー 変貌する千葉県	

第3節	当行経営の近代化	407
1.	経営計画の樹立	407
	長期3カ年計画「2,000億への道」の策定	
	長期5カ年計画「5年後の千葉銀行」の発表	
2.	店舗網の整備	409
3.	資本の推移	410
	自己資本の充実 株式の上場	
4.	組織制度の改正	412
5.	経営の近代化	415
	総合予算制の確立 原価計算の実施 本支店利率の改定	
	コンピュータの活用	
6.	創立25周年	417
第4節	躍進する業容	419
1.	資金量の拡大	420
	総預金2,000億円達成運動の推進 預金増強運動の実施	
	新種預金の設定	
2.	資金の運用	425
	融資の推進 融資機構・事務手続きの合理化	
	消費者ローンの拡大	
3.	業務の多様化	429
	口座振替業務の拡大 クレジットカード 相談業務の充実	
4.	業務の発展	431
	外国為替業務の発展 公金業務の充実	
5.	業務提携の進展	434
	地銀データ通信システムの発足 オープンコロレスの開始	
	定期預金の相互代払制度の発足 広域手形交換制度の発足	
	3行提携の進展	
6.	社会奉仕	438
	集団献血 小さな親切運動 災害見舞	
7.	P R 活動	439

第5節	事務の合理化	441
1.	事務環境の整備	441
	合理化の推進 「事務手引」の刊行 提案制度の実施	
	ZD運動の実施 事務管理の強化	
2.	事務工程の改善	444
	メールカー・システム 手形交換の拡大 為替事務の合理化	
3.	コンピュータによる事務処理	447
	オフライン オンライン	
カラー	営業活動	
第6節	新しい人事施策	463
1.	人事管理	463
	給与制度 人事考課制度 『管理者ニュース』の発刊	
	行員数の推移と適正人員 朝会・夕会の実施と行歌の制定	
2.	職員研修の充実	467
	研修制度 研修所の開設	
3.	福利厚生	468
	週休2日制・連続休暇制の採用 健康管理の徹底	
	住宅施策 希望者グループ保険のあっせん 職員持株会の設立	
	レクリエーション活動	
4.	千葉銀行健康保険組合	472
5.	千葉銀行従業員組合	473
カラー	研修・福利厚生	
 終章 創立30周年を迎えて 		
第1節	業績の飛躍的發展	501
第2節	新本店の建設	504
第3節	創立30周年	507
カラー	新本店	

付 編

株式会社千葉銀行定款	531
役 員	
現 役 員	535
退職役員	543
役員任期一覧表	559
機 構	
業務機構の変遷	561
歴代本部主管者	569
行勢の推移	
資本金の推移	573
株主の現況	573
預金・貸付の推移	574
有価証券の推移	575
預金の構成比	576
貸付金の構成比	576
有価証券の構成比	577
外国為替取扱高推移	577
利益金の推移	578
行員数の推移	579
店 舗	
店舗配置図	580
営業店舗	582
店舗略歴	631
廃止店舗	653

財務諸表

貸借対照表	662
損益計算書	686
剰余金処分一覧	709
千葉県経済の推移	715
年 表	739
主要参考文献	788
あとがき	791

凡 例

1. 本史の記述は、原則として昭和48年3月までにとどめた。
2. 原則として当用漢字および現代かなづかいを使用した。固有名詞・慣用語など必ずしもこれによらないものがある。
3. 引用文について当用漢字体のあるものはこれを使用し、適宜、句読点を補ったほかは原文のままとした。
4. 本文中の人名は原則として敬称を省略した。
5. 「当行」は千葉銀行を、「当県」または「県」は千葉県を表す。
6. 資料の出所を示していないものは、当行内部の資料である。

参考文献は巻末に一括掲記した。